

『聖霊によるビフォー・アフター』使徒1:8

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

●序論

クリスチャンにとってあたりまえでいてとても大切なこと。それは、イエスさまがわたしたちに約束してくださったことがあるということです。

ヨハネ14:16

わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

ああ、聖霊さまだったんだ。どんな時もわたしと共にいてくださって、どんな残念に思えるような中にも「うれしすぎる」喜びをくださっている、そう気づくのです。

そして今日、わたしたちにさらに一歩進んで受け取ることのできる、イエスさまがお話くださった「父の約束」されたものをここで示してくださっているのです。

1:4 …「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを受けられるであろう」。

まさに今年の教会標語「御言葉を経験しよう！」にまなかされている経験です。

今日はタイトルに「聖霊によるビフォー・アフター」としました。

そこで期待するのは、前の状態よりも、良くなった状態が作りあげられるということ。そしてもう一つ、それを見た人経験できる人は、神さま由来のうれしさを経験するということです。

●本論

I. 歴史：今もキリストは生きていと証しできる

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

十字架の出来事は歴史的な事実、復活の出来事も、聖書にしるされた弟子たちの証言などから伝え聞いている。ただ、そのどれも過去の歴史物語のひとつとして捉えられるだけで終わってしまう。

しかし、聖霊が注がれるとき、それは過去に過ぎ去った物語ではなくなりました。

イエス・キリストの十字架と復活を通して、神さまの愛が示され、罪の赦しと救いのわざが一人一人の人生に及ぶ。こうして聖霊が、このイエス・キリストの福音の物語は、過ぎ去った出来事ではなく、今もわたしを救う力ある物語と示されるのです。

ペンテコステの日、あのイエスが、噂によるとよみがえって弟子たちの間に現れているという風であるけれども、どちらにしても過去のことで自分たちと関係ない…、あのエルサレムで、そう捉えていた人も多かったと思います。

これは今、あなたに関わる、あなたの物語であると。

2:36 だから、イスラエルの全家は、この事をしかと知っておくがよい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は、主またキリストとしてお立てになったのである」。

2:37 人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った。

このメッセージは、わたしたちが手にしているこの聖書を通してわたしたちにも「今のわたしたちの心を強く刺す言葉として、生き生きと語りつづけられているのです。

Ⅱ. 教会：はじまりは聖霊のバプテスマです

キリスト教会はこのペンテコステの日を、教会の誕生日として捉えています。

では、あの日、実際には何が生まれたのでしょうか？

立派な建物が生まれたのでしょうか？ それとも 信徒たちが生まれたのでしょうか？

信徒の集いに、ある日聖霊が注がれ、彼らが聖霊に満たされて異言で祈り始めた。その体験をした人々が、大胆にキリストをあかしするようになったとき、この出来事こそが、教会の誕生日だと言われるようになったのです。

2:1-4

五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

聖書によると、聖霊に満たされた、聖霊のバプテスマを受けた信徒たちがそこに生み出されたということです。これこそキリスト教会の誕生と言われるゆえんであるのです。

Ⅲ. 個人：救いに始まり証し人にしてくださる

聖霊によらなければ…と聖書ははっきりとこう言います。

また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。
(1コリント12:3)

ここでは、そのすばらしい救いの上で、神さまはわたしたちにご自身のご計画と祝福を注がれる出来事、それこそ聖霊の満たしであったことがわかります。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。イエスさまがご自分の弟子たちと後に続く信徒たちにゆだねた使命。それは福音宣教であることは、わたしたちもよく知るところです。

マルコ16:5 そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。

このイエスさまの言葉を聞いてまず考えるのは、わたしたちにそんな力があるのか？ということです。 実際、だからイエスさまはこう言われていたのです。

ルカ24:49 見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。

この力は、同じルカが使徒行伝で示しているのように、聖霊のバプテスマです。

それは今日のわたしたちにも必要な力です。それは、内からあふれる霊的な力です。

力というと「カづく」というイメージを持ちますが、神を愛し人を愛する力です。人を赦し人をとりなす力です。人を癒し、慰める力となります。そして何より、確信をもってキリストの福音を伝え、人を救いに導く神さまの力なのです。

使徒行伝を見ると「聖霊を受けた」出来事が記され、またある時には「あなたがたは信仰に入った時、洗礼を受けたのか」と尋ね、その続きにこうあります。

使徒19:6 そして、パウロが彼らの上に手をおくと、聖霊が彼らにくんだり、それから彼らは異言を語ったり、預言をしたりし出した。

これは今のわたしたちに必要な祝福であることを、覚えていただきたいのです。

…それは体験してはじめてわかることだと、そして人由来の者とは全く違うということが、経験して変わります。だから求める必要があるのです。

イエスさまははっきりこう言われました。

ルカ11:13 …天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるだろうか」。

わたしが聖霊に満たされての最初の典型的なビフォー・アフターを申し上げます。

それは、わたしの中に、神さまの喜びが満ちあふれてきたことです。

うれしくてうれしくてしょうがないのです。救われたときの喜びが、さらにこんなに素晴らしいことだったのか…と、わかる喜び。

聖霊さまががいっぱいに自分の中にあふれていることが、実感となってくる喜び。

出会う人、出会う人を心から祝福したくなる喜び。その日、誰かと会えたことで、思わず「ハレルヤ！」とうれしくなる喜びが内に満ちあふれて来るのです。

周囲は何も変わってはいません。でもわたしは変えられたのです。わたしは満たされ、わたしは変えられた、「うれしすぎる経験」なのです。

●さいごに)

この聖霊のバプテスマの喜びは、そこでゴールではありません。

これは、神さまが与えて下さっている、イエス・キリストを、福音を、証しするための祝福された力であることを決して忘れてはない、これは大切なことです。

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

どこに行っても、どんな場所でも、どんな人との出会いの中でも、わたしはイエスさまの証人となることができる、そんな力がこの聖霊の満たしにあふれています。

毎日のどんなところでも、聖霊さまが共にいてくださって、良い出会いを与え、気づきを与えて下さいます。わたしたちがだれかの慰めとなり、励ましとなり、また救い

のきっかけになるように導いてくださるでしょう。

祈りを必要としている人に、心から聖霊によって祈る者とされていくでしょう。

ビフォー。かつて、力がなく、あっても自分の力押しでしかなかった祈りが、聖霊に満たされ聖霊のお働きを豊かに経験する祈りと生活へと変えられるのです。これが、アフターです。

これほど素晴らしい祝福はありません。この聖霊の満たしをぜひ求めてまいりましょう。